

令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・領域ごとの特性に応じて、屋上校庭やアクティブルームを効果的に使用することができた。
- ・高学年の器械運動（マット運動）の技能が特に高まった。
- ・朝活で投・走の運動を積極的に取り入れたことで、投・走の能力の向上を図ることができた。

(2) 課題

【単元内自由進度学習の取組】

- ・学習形態の工夫（こどもの自己選択・自己決定）

昨年度、体づくり領域で単元内自由進度学習を行った。体育科授業は、複数人（グループ）で活動することが多いため、単元内自由進度学習が効果的であるかどうかを領域ごとに十分検討する必要がある。

【体力テストの結果から】

東京都の平均と本校の児童の記録を比較して、上回っているものは「↑」、下回っているものは「↓」平均と変わらないものは「―」で表している。

	握力	上体	長座	反復	シャトル	50m	立ち幅	ボール
1年男	―	↑	―	―	↑	↓	↑	↓
1年女	↑	↓	―	↑	↑	↓	↑	↓
2年男	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓
2年女	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓
3年男	↑	↑	↑	↑	↑	↓	―	―
3年女	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↓
4年男	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↓
4年女	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↓
5年男	↑	↑	―	↑	―	↓	↑	↓
5年女	↑	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↓
6年男	↑	↓	↑	↑	↓	↓	↑	↓
6年女	↑	↓	↑	↑	↑	↓	↑	↓

- ・どの学年も50m走とソフトボール投げの記録が都の平均を下回っている。
- ・中学年から、シャトルランの記録が都の平均を下回っている。

【意識調査の結果から】

- ・「自分に合った場やルールが用意された」と回答した児童が少ない。
- ・「授業中に自分の動きを撮影した動画を見た」と回答した児童が少ない。

【体育科授業での児童の様子から】

- ・学習形態の工夫（こどもの自己選択・自己決定）

知識や技能だけではなく、児童が自分で課題を見付けたり、解決しようとしたりする力が十分に積み重なっていないため、6年間の学習の積み重ねを意識して実態やねらいに合った指導を行い、活動の場を工夫していく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動遊びをする場を選択したり、何度も挑戦したりするなど、自己にあった楽しみ方を見付けられるようにする。 ・易しい運動遊びを通して運動の楽しさに触れ、基本的な動きを身に付けられるようにする。	工夫したことや友達のよい動きを見付け他者に伝えられるようにする。	順番や決まりを守り、だれとでも良好な関係をつくろうとしながら、運動遊びができるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動する環境が制限されているため、領域ごとに身に付けたい知識・技能を精選し、確実に身に付けることができるようにする。	ICT 機器を活用し、自分で動きを確認して課題を見付けたり、チームで作戦を話し合ったりさせる。そのことで、運動に対して思考する時間を増やしていく。	グループ活動を取り入れることを通して、友達同士の連帯感が生まれるような目標を設定する。そのことで、友達同士関わりながら楽しく運動ができるようにする。 ・自己の動きの変容、成長をよく振り返らせ、実感と意欲につなげる。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体づくり運動(体力を高める運動)を通して、持久力を高めるよう指導する。 児童一人一人に技能に関する具体的なめあてをもって学習に取り組ませ、次の学習に生かせるようにする。 児童が自分に合った場を選んで運動することを通して、それぞれの運動の特性に応じた技能が身に付けられるようにする。	タブレットやデジタル教材、映像などを活用し、自分の動きを見たり、手本と自分の動きを比較したりする活動を積極的に取り入れる。 ペアやグループで学習に取り組ませる。見合うポイントを指導し、課題を伝え合う場を設ける。 学習カードを活用し、めあてに対する自分の学習の様子や成果を振り返らせる。	運動する楽しさや喜びを一層深められるよう、運動の特性やよさを指導する。 「する」「見る」「支える」「知る」の観点を積極的に学習に取り入れ、進んで運動に取り組めるようにする。

